



営農NEWS



シソ（オオバ）に県内で初めてシソモザイク病（仮称）の発生が確認されました

被害株の早期発見と防除の徹底に努めてください

病害虫発生予察特殊報第 3 号（平成 27 年 1 月 27 日 県病害虫防除所発表）

によりますと

平成 26 年 2 月上旬に、鹿行地域のシソ圃場（施設栽培）において、葉にモザイク症状の生じた株が確認され、（独）中央農業総合研究センターで検査してもらった結果、新種のウイルス（PMoV: Perilla mosaic virus）と判定され、シソモザイク病（仮称）であることが確認されました。

シソモザイク病は、平成 26 年に高知県および大分県で特殊報が発表されています。

<病徴>

本病は、葉に明瞭なモザイク症状を生じ、症状が進行すると葉脈が曲がって葉が奇形となります。症状は、枝単位で見られる場合と、株単位で見られる場合があります。

<伝染方法と病原ウイルスの特徴>

本ウイルス（PMoV）は、極微小な害虫シソサビダニが吸汁することによって媒介されます。種子伝染や汁液伝染、土壌伝染はしないと考えられていますが、新種のウイルスであるため詳細は解明されていません。ウイルスの検定は、遺伝子診断（RT-PCR法）によって可能です。シソサビダニは体長が約 0.15 mm で、肉眼での観察は困難な害虫です。

なお、高知県の特殊報「シソサビダニ」によりますと、シソサビダニは「主に生長点に近い葉や茎を加害して、初期は葉の基部に近い部分の表面が、加害が進むと葉や生長点、茎の表面が褐色のさび症状になり、著しく加害された株は落葉や枯死する」と記述されています。

<防除のポイント>

新種のウイルスで、防除対策も解明されていませんが、以下の事項は有効と考えられます。

- 1 苗への感染を防ぐため、育苗は本圃とは別の場所で行いましょう。
- 2 発病株は見つけしだい抜き取り、埋設するなど適切に処分します。なお、抜き取る際には、株にビニール袋をかぶせるなど、媒介虫のシソサビダニが他の株に拡散しないよう注意することが大切です。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040